

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自己肯定感の向上 〈集団づくりのコミュニケーション力を養う〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同授業研の実施</li> <li>・夏季小中合同研修会の実施</li> <li>・南中ブロックスタンダードの実践検証と、めざす子ども像の共通理解</li> <li>・人権学習におけるの共通理解</li> <li>・いきいきスクールの実施</li> <li>・研究授業や参観など、各校の行事の交流</li> <li>・保幼小中カリキュラムの実践と検討</li> <li>・連携通信の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施</li> <li>・夏季小中合同研修会の実施</li> <li>・南中ブロックスタンダードの定着に向けての検証</li> <li>・人権学習におけるの共通理解</li> <li>・いきいきスクールの実施</li> <li>・研究授業や参観など、各校の行事の交流</li> <li>・英語教育の小中・小中交流</li> <li>・保幼小中カリキュラムの実践と検討</li> <li>・連携通信の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや教科を設定した小中合同授業研の実施</li> <li>・夏季小中合同研修会の実施</li> <li>・自己肯定感向上につながる南中ブロックスタンダードのさらなる検討、検証</li> <li>・人権学習・教育推進についての共通理解</li> <li>・いきいきスクールの実施</li> <li>・研究授業や参観など、各校間交流活性化</li> <li>・外国語教育の小中・小中交流、連携強化</li> <li>・保幼小中カリキュラムの実践と検討、見直し</li> <li>・南中ブロック連携通信の発行</li> </ul>
確かな学力の育成	自習意欲 思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4・5年生の算数科における習熟度別学習の実施</li> <li>・3・6年生の算数でのT・Tの実施</li> <li>・校内漢字検定の実施</li> <li>・外国語活動・国語科での校内研究授業の実施</li> <li>・校内学力実態調査(年2回)学習アンケートの実施</li> <li>・家庭学習の手引き、「タケノコ」の配布「南中スタンダード」の継続実施</li> </ul>	<p>29年度の実践の成果の継承発展と課題の検討をおこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内学力実態調査や学習アンケートから見える課題についての検討や対応の検討</li> <li>・「書く意欲」向上をめざしたことばの力のプリントの活用</li> <li>・外国語活動などの校内研修の継続的实施</li> <li>・家庭学習の手引き、「タケノコ」の配布</li> <li>・習熟度別学習の継続・3～6年を対象にした「たけのこ教室」の継続</li> </ul>	<p>30年度の実践の成果の継承発展と課題の検討をおこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ことばのちからプリントなどを活用した「書く意欲」向上の実践の継続</li> <li>・学力実態調査や学習アンケートの活用。校内体制で課題への方策を検討、実施</li> <li>・PDCAサイクルで校内研修の継続的实施</li> <li>・家庭学習の定着に向けて、手引き、「タケノコ」通信の配布</li> <li>・習熟度別学習の工夫・改善</li> <li>・補充学習の機会「たけのこ教室」の継続</li> </ul>
豊かな人間性を育む	安心・居場所・つながりを大切にする集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとにクラスの友だちを知り自分の事を伝えることを目的として一斉人権学習を全校で実施</li> <li>・地域の方と連携したあいさつ活動の実施</li> <li>・地域と職員の交流会を年2回実施</li> <li>・国際理解学習5年生コリアンタウンワールドワーク</li> <li>・支援学級担任による障がい理解教育の出前授業(1年から5年生に年1～2回実施)</li> <li>・6年生リパティ―大阪見学</li> <li>・子ども主体の児童会活動</li> <li>・道徳の教科化に向けて内容の実施、検討</li> </ul>	<p>29年度の実践の成果の継承発展と課題の検討をおこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育、国際理解教育についての校内研修及び研究授業の実施。内容の検討</li> <li>・地域理解、国際理解、障がい理解の推進のための各学年の実践の継続的実践</li> <li>・子ども主体の児童会活動の推進、学校全体での取組みの検討</li> </ul>	<p>30年度の実践の成果の継承発展と課題の検討をおこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の人的環境を整える。ルールを守る。しずかをつくる。仲間を大切にすること</li> <li>・学びの中でつながることができる学習集団の育成、授業デザインの構築</li> <li>・一斉人権など人権学習の取組みの継続</li> <li>・地域理解、国際理解、障がい者理解教育の推進。そのための各学年の実践の再構築、実践</li> <li>・子ども主体の児童会活動の継続に向けた取組みの強化</li> </ul>
健康体力の増進	③体力向上を目標とした短時間運動プログラムの実践 ①運動の楽しさを味わわせる授業づくり ②体育科を通しての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向けて大切にしたい取組みのポイントについて、継続して取り組む。</li> <li>・外遊び週間や行事、委員会活動を通じた体力づくりを行う。</li> <li>・業間(25分間)に「なかよしタイム」として体力づくりの時間を設定する。活動は、ペア学年などの異年齢集団を基本として行う。異年齢集団を形成して一斉に遊ぶ機会をもつことで、体を動かすことの楽しさだけでなく、相手を思いやる心も育てる。</li> <li>・地域の協力や小中連携を通して体育の授業や体育的行事の充実を図り、運動の楽しさを十分に味わわせる。</li> <li>・短時間運動プログラムの実践に取り組み、運動能力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向けて大切にしたい取組みのポイントについて、継続して取り組む。</li> <li>・技能を伸ばすだけでなく、友だちと関わらせながら作戦を立てたりルールを工夫したりする楽しさを味わわせる。</li> <li>・体育の活動内容の工夫と運動量を確保する授業づくりを行う。</li> <li>・業間等を利用して、楽しく体を動かす機会を増やす。</li> <li>・望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進める。</li> <li>・短時間運動プログラムの実践を継続して行い、取組み状況の交流や改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向けて大切にしたい取組みのポイントについて、継続して取り組む。</li> <li>・体育授業において個や集団にあった「めあて」の設定、学習の展開と教材・教具や授業デザインの工夫・改善に取り組む。</li> <li>・体を動かしたくなるような「運動環境」の工夫を全学年に取り入れる。</li> <li>・子どもが主体となる体力づくりについて委員会活動を通じた取組を行う。</li> <li>・短時間運動プログラムの実践を継続して行い、取組み状況の交流や改善を図る。</li> </ul>
支援教育の充実				

## 2

# 今年度の結果と取組みについて

## (1) 全国学力・学習状況調査

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- |            |               |
|------------|---------------|
| ①話すこと・聞くこと | 課題が残る結果であった   |
| ②書くこと      | やや課題が残る結果であった |
| ③読むこと      | やや課題が残る結果であった |
| ④言語事項      | 課題が残る結果であった   |

#### (問題形式)

- |      |               |
|------|---------------|
| ①選択式 | やや課題が残る結果であった |
| ②短答式 | 課題が残る結果であった   |
| ③記述式 | 課題が残る結果であった   |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

#### (その他)

読むことに関する設問では、全国平均を下回る正答率だったが、設問によっては全国平均を上回る設問もあった。  
言語領域の漢字では全国的に正答率が低かったが、全国との差が大きく漢字の定着に課題がみられた。

#### 分析

無解答率が低く、児童のテストに対する姿勢や最後までやりきろうとする気持ちが育っていると感じた。これは、日々の授業の中で学習のふりかえりや学習内容をまとめる活動を続けたことの成果と考えられる。しかし、設問慣れしていないのか時間が足らず、後半の問題を解答できなかった児童が多数いた。時間内に最後までやりきれるように日々の、テストの持ち方も検討が必要と感じた。

文章読解に関しては出来ており、児童の正答率、解答率も比較的良い傾向になった。短答式、記述式の設問に関しては、理解していても条件を踏まえて書くことへの経験不足からか正答率が低くなった。また、言語領域では漢字の正答率が著しく低く、ことわざなどの知識的な設問にも課題がみられた。このことから本校の漢字学習の取り組み方や日々の授業の見直しを学校全体で考えていくことが必要と強く感じられた。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |       |             |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②量と測定 | 良好な結果であった   |
| ③図形   | 概ね良好な結果であった |
| ④数量関係 | 良好な結果であった   |

### (問題形式)

- |      |           |
|------|-----------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

### (その他)

正しい図形を選択する問題や伴って変わる二つの数量を選択する問題は正答率が高かったが、一方で、除法の計算の仕方を記述する問題が最も正答率が低く、無解答率も高かった。

### 分析

無解答率は全体を通して低く、記述式の問題に関しても全国平均と比べても無解答率は低くなり、改善された。平均正答率も大幅に全国平均を上回りに改善された。

計算については成り立つ性質を見だし、表現できるようにすることや数を多面的にみて、計算を能率的に行う工夫ができるように取り組んできたことを今後も継続していく。

日常生活と関連付けて、問題や課題の数量の関係に着目して筋道を立てて考え、数学的に表現、処理し、得られた結果から判断することができるように取り組んできたことを今後も継続していく。

図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成することができるように図形についての見方や感覚を豊かにする指導を今後も継続していく。

図形の選択問題では2つまでは該当する図形を選び出せていても、3つめを見落とすなど慎重さを欠く問題も見られた。ここに限らず、日ごろからのテスト・問題に対する見直しを徹底できるよう働きかけていく必要がある。

資料の特徴や傾向を考察し、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断できるように、また計算の順序について具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるような指導を今後も継続していく。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

昨年度に比べ、算数は全国と比較して良い結果となった。  
国語は、昨年度と同様、課題の残る結果となった。  
無解答率は大幅に低下して良い傾向にあるといえる。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

今年度は算数について中位層の思考力がつき、高位層から中位層の割合が非常に増加し、低位層、エンパワー層の割合は大幅に減少した。国語については低位層、エンパワー層が増え、高位層が減少した。今後も低位層、エンパワー層の減少に取り組み、中位層から高位層への割合を高くできるように、日々子どもたちの実態を把握し、教職員一丸となって手立てを考えていく。

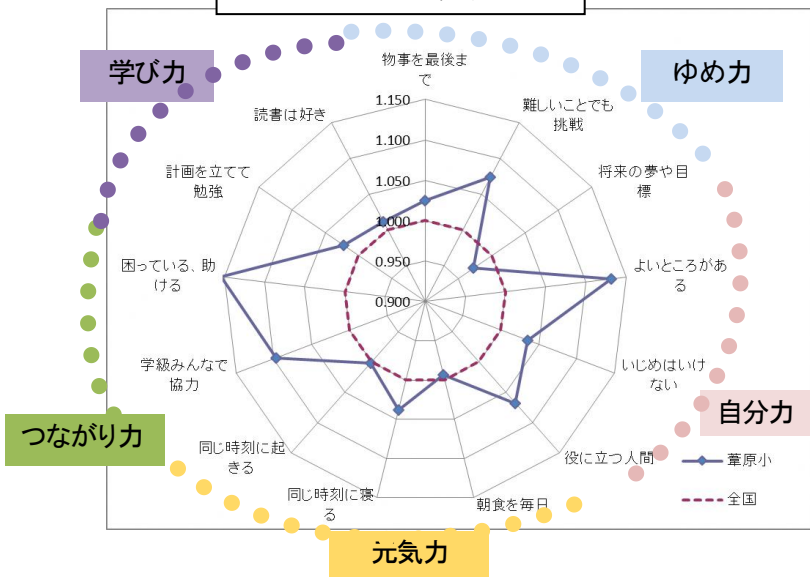
## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

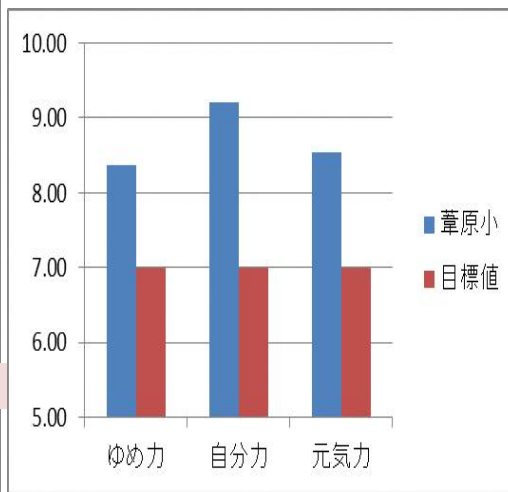
- 算数科における様々な学習形態の実施  
躰きが出始める4・5年生の算数において、子どもの実態や単元の内容に合わせて「習熟度別授業」「ティームティーチング」など、様々な形態の授業を行う。算数の苦手な児童は基本をじっくりおこない、得意な児童は難しい問題に挑戦したり、言葉や図で分かったことを説明する活動をしたりというように習熟度別授業をおこなう事で基礎の定着につながるだけでなく、算数の楽しさや、自ら学ぶ意欲を育てていく。また、少人数での学習の中で子どもたちの課題を知り、細かな指導を行っていく。
- 子ども主体の授業づくり  
年3回の研究授業を中心に、子どもたちが進んで考え、活動できる授業づくりの研究を行う。本年度より算数科の研究をしており、引き続き主体的・対話的な学びあいのある子ども主体の授業づくりを研究推進していく。
- ユニバーサルデザインの授業の推進、葦原スタンダードの活用  
すべての子どもが安心して参加できる学級をつくり、分かりやすい授業の工夫を行うために、ユニバーサルデザインの授業を推進し教育環境の整備に取り組む。また、学習規律や生活ルールを示した葦原スタンダードをすべての学年で活用していくことで、学年が変わってもスムーズに学習、学校生活ができるようにする。
- 校内漢字検定の実施  
3学期に校内漢字検定を行い、学習に対する子どもの自信を育てるとともに、漢字の習熟を図る。子どもたちの漢字の課題を把握し、実態にあったものに変えていく。
- 学習アンケートの実施  
学習に対する子どもたちの意識や家庭学習の状況などのアンケートを行い、分析した結果を日々の授業づくりや指導に活用する。
- 校内学力実態調査の実施  
算数科のテストを行い、習熟の状況を数値的に明らかにする。課題の見られた部分は、授業や朝学習、宿題などで重点的に復習を行う。また、75%未満の子どもたちに関しては、職員全体で必要に応じた支援を行う。
- 家庭との連携  
家庭学習の定着と、自学自習力の育成を図るため「家庭学習の手引き」を作成する。また、「タケノコ」4・5年においては、「算数のコースわけプリント」などで子どもたちの学習の様子を保護者に知らせ、家庭との連携を図る。
- タケノコタイム（学力保障教室）の実施  
お昼の休憩時間に3～6年生を対象に、自ら学ぶ意欲の向上を目的に、算数教室をおこなう。自ら進んで学習することを、学校全体の文化として定着させていきたい。
- 保幼小中連携  
保幼小中連携カリキュラムを通じて、中学校ブロック内での実践の共有や合同研修会をおこなっている。授業を公開し、各校の研究や課題を交流することで中学入学時の段差を少しでも解消し、確かな学力保障につとめていきたい。
- 難しい課題に取り組むため、何事にも最後まであきらめずに挑戦するための「心の体力」「学びの体力」の育成

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較レーダーチャートは13項目、目標値との比較棒グラフは、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

本校は、地域の行事や活動が多く、それを支えてくれている人、見守ってくれている人が多い。また、学期ごとにクラスの友だちと向き合う取組みとしてクラスミーティングもおこなっている。そのためつながり力や自分力では全国平均と比べて非常に高い水準にまとまっており、「自分も人も大切に」を学校テーマに位置付けている本校の特色が出た形となっている。元気力については例年課題になっていたが、今年度全国平均並みに改善されている。家庭との連携を引き続き強化し、取り組んでいく。「将来の夢や目標を持っている」というゆめ力については自尊心が非常に高い中、改善はされたものの全国平均より低い結果となった。自分の将来について具体的に考える機会やキャリア教育の充実を図ることに取り組んでいきたい。

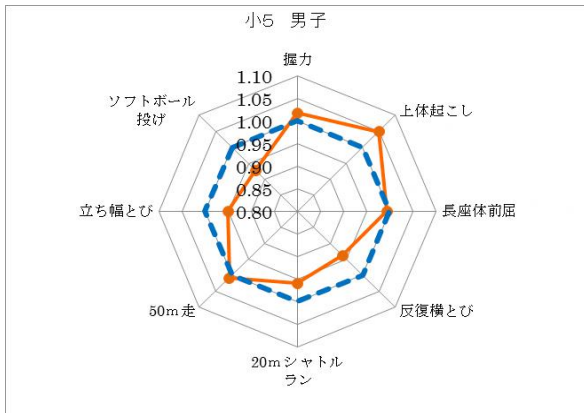
## 取組み

- ・ 5つのこと「ルールを守る。」「しずかをつくる。」(自分力)「仲間を大切にする」(つながり力)「最後まであきらめずに頑張る。」「夢や目標を持つ。」(ゆめ力)にむき合う子どもたちの育成(非認知能力の育成)
- ・ 友だちの思いに寄り添い、集団の中で自分の居場所を感じられる集団づくりの取組み
- ・ 自分を語り、友だちの思いを聴き、知り、考え、つながる一斉人権学習の取組み
- ・ 学習を大切にし、自分の考えをもち、学びを深める学びあい活動に積極的に取り組む学習集団づくり
- ・ 地域や地域の人との出会い、体験、共生の視点を大切にした人権に関わる教育の推進
- ・ 平和な社会をつくる担い手となるために、学ぶことから逃げずに、思いやりの心を持ち、たくさんの人とつながり「身の回りや社会の課題に気づき、解決しようとする子ども」を学習集団・学級集団の中で育む
- ・ 知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度を育む授業づくり
- ・ 学習面・生活面・家庭背景の実態把握と交流、情報および方策の共有
- ・ 算数の授業における習熟度別指導の実施による学ぶ意欲の向上と確かな学力の育成
- ・ 校内漢字検定の実施 ・放課後や、休憩時間を使った補習の実施
- ・ 支援を要する児童に対する日常的な授業の手立ての研究。その成果や課題等を職員間で共有。

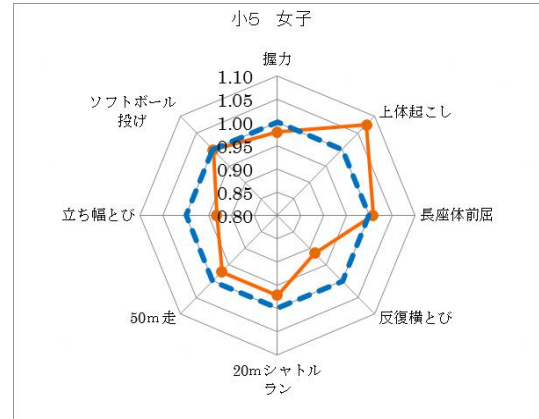
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

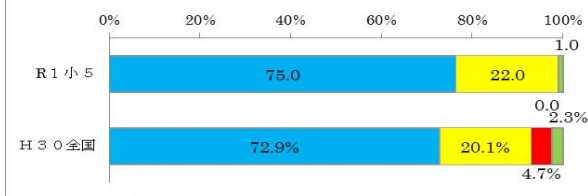
男子 (小5)



女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



■ 好き ■ やや好き ■ ややきらい ■ きらい

### 分析

男女ともに上体起こしは全国の平均を上回る数値になり、良好な結果となった。それ以外の種目においても、全国平均に近い数値となっている。男女ともにスポーツが好きという児童が半数を超えており、特に男子は運動に対してほとんどの子どもが肯定的であるという結果がでた。水泳学習でも、高い達成率が出ている。

しかし、男女ともに反復横跳びの数値が全国平均と比べて下回り、学校全体としても課題が残る結果になっており、来年度早急な取り組みが必要であると考えられる。

また、運動が得意な児童と、運動が苦手な児童の、運動面での意欲、運動能力の差も大きくあることから、苦手な子どもが体を動かすことを楽しいと感じることができる体育の授業をめざし、授業改善に取り組んでいきたい。

### 取組み

#### ① 運動の意欲を高める授業づくり

- 運動の楽しさを十分に味わわせながら、指導内容の確実な定着を図る。それらをもとに、子どもの主体的な学習への参加を促す。
- めあての示し方、もたせ方、練習の場を工夫し、「できない。」という意識から、「やってみよう。やってみよう」と意欲を高めるように進める。
- めあてを意識し、子どもたち一人ひとりが自分の課題に合わせてスモールステップで練習できる場を設定する。
- 教科書や掲示物、ICT機器を活用して、できないことに取り組むことや、もってできるようするために思考力を高める授業を通して運動への意欲を高めていく。

#### ② 体育科を通しての仲間づくり

- 体力や技能向上を仲間とともに学習していく過程で自然と身につけていくためにも、人とかかわりながら、わかり合おうとする姿勢を育てていく。そのためにも、友だちとともに夢中になって取り組むための学習内容・方法や場を工夫していく。
- 体育の「授業づくり」だけでなく、体力の基盤である「健康づくり」や、外遊びの少ない子どもに友だちとともに遊ぶ楽しさを体験させる「仲間づくり」を大切にする。

#### ③ 体力向上を目標とした実践

- 立命館大学のプログラムを活用し、学校全体で取り組む。子どもたちだけでなく、教員も手ごたえを感じていることもあり、今後も継続して活用していく。
- 校内で研修を実施し、多くの実践を学ぶ機会を設ける。